

eスポーツ用品向けラボ

6月開設

竹内型材 研究所 商談・イベントに活用

【相模原】竹内型材研究所（神奈川県伊勢原市、内山真司社長）は、eスポーツを核に商談や製品の検証などを行う施設「NINJA R A T M A T（ニンジャラットマット）R&Dラボ」を6月に開設する。本社近隣に位置し、新規分野として注力するeスポーツ関連商品の試用・イベント開催のほか、本業である難削材加工技術の研究、ショールームとしての活用などを行う。投資額は約3000万円。



竹内型材研究所が入居する工業団地内の建ち、入居することにし、平方メートル。最新鋭の機器

小規模のゲーム大会などを実施し、金属製マウスパッドの性能や使いやすさを周知する。eスポーツを意識し、照明や大

型ディスプレイなどを採用した。空調も新型コロナウイルス感染症対策として高性能の機器を置く。

ラボ内には岡本工作機械製作所製で特注の平面研削盤や平衡度を検査する機器を設置する。マウスパッドの加工の難しさをアピールするほか、電気自動車（EV）や半導体関連といった新規ユーザーを中心に、金属板の加工技術を磨き上げていく。

同社では「ラボを活用し、当社のeスポーツ向けブランドであるニンジャラットマットの知名度を高めたい」（永広知史マーケティングチームリーダー）としている。